

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立竹木場小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・竹木場小学校の学校教育目標「夢を語って、夢を追う児童生徒の育成」～「継続」「挑戦」「進化」～のもと、高峰中学校校区の4校による合同研修や推進会議を実施し、協力・交流の機会や情報の共有を通して、学力向上、キャリア教育、人権・同和教育など、共に研鑽を積んだ。</p> <p>・学力向上については、「唐津の学びスタイル」をもとに、小中連携による研究に添って、単元による学習計画表の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。以前から取り組んでいることを教師間で協議を重ね、学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行っている。今後、「唐津の学びスタイル」の各項目を全職員で吟味し、重点項目を設定し、授業改善に取り組んでいく。</p> <p>・児童主体のあいさつ運動を実施しており、中学生にならって、立ち止まりあいさつに取り組む児童が増えている。学校行事・児童会においても児童の出番が確保され、自分たちの手で行事を成功させたという達成感を感じさせることができていく。しかし、児童の自主的活動までには至っていない。</p> <p>・業務改善については、過度な超過勤務はなく勤務時間についてはほぼ適正であるといえる。ただ、時期的・個人的にみると、取組が十分でないこともあり、各自で自分のライフスタイルを意識して業務を分担していくことが、今年度の課題である。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>夢を語って夢を追う児童生徒の育成</p> <p>「継続」・「挑戦」・「進化」</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区内の学校連携に根ざした校内研究（キャリア教育・学力向上）の推進 ○分かる授業の構築と確かな学力の育成 ○児童会・生徒会活動の活性化 ○業務改善と働き方改革の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標（数値目標）								
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上 ○「文章の意味が分かるようになった」に対して肯定的な回答をする児童の割合60%以上	・校内研あるいは公開授業で自主的な活動の取り組みを紹介し、全教職員で授業研究会を実施する。 ・「唐津の学びスタイル」を理解し、単元計画を立て、個別最適な学びを実践していく。 ・学習規律や学習環境を家庭学習を見直し、基礎的な学力の向上を目指す。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動するなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上	・挨拶運動等を推進し、児童の良さを確信する。 ・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解のもと着実な指導をし、授業中「ばさん呼び」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・児童に毎月、生活アンケート（月のこころ）をと、気になる事例については直ちに聞き取りを行い、いじめの早期発見に努める。 ・保護者やSC、SSWと連携を行い、教育相談体制を充実させる。							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒65%以上	・「夢を語って夢を追う児童」という学校教育目標に向かって、児童が主体的に活動する場面を設定したり、自主的活動を学校行事や学級活動に取り入れれたりするなど、承認する場をより多く設定する。							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業も含み、運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65%以上	・一日1時間以上の運動を目標にして、15分休みや昼休みの外遊びを勧める。 ・アンケートを実施して、児童の取り組み状況を把握する。							
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・給食だよりの発行 ・保健だよりの発行 ・食育資料の提供 ・教科等における食に関する指導の取り組み							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○全職員の時間外勤務時間の平均が45時間以内にする。	・それぞれでライフスタイルに合う定時退勤日を設定し、徹底する。 ・職員掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。 ・会議資料をデジタル化することにより、会議準備及び会議時間の短縮をする。 ・業務記録のデジタル化及び簡略化による時間外勤務の適正化							
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・月1回以上の「生活打合せ」等により、児童の情報共有をして対応する。 ・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願などを情報共有して対応する。 ・特別支援に関する研修会を学期に1回以上実施する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標（数値目標）								
○キャリア教育	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒60%以上	・キャリアパスポートの活用 ・スピーチ集会の実施 ・実行委員会での行事運営							
○特別活動の充実	○児童の主体的活動の活性化	○児童会を中心に学校生活を充実させようと努力していると回答する児童85%以上	・児童会活動による学校行事の実施 ・児童が主体的に取り組む活動の充実							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------